

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高 等 学 院 長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [本間 義隆]

学年・組・番号 [2 年 D 組 23 番]

研究課題： 中近世における飯縄信仰と「飯縄山大明神縁起」の歴史的展開
——山岳修験の縁起と神像の重層性についての考察——(英文) Research on the historical transition of the Iizuna-Shrine faith and
the “Iizuna Daimyōjin Engi” in the Middle Ages in Japan.

研究概要：

申請者は 2023 年度高等学院同窓会学術研究奨励金において、「飯縄山を例とした中世から近世までの山岳修験の歴史的意義とその過程についての考察」を申請し、長野県長野市の山岳信仰である飯縄信仰の研究を実施してきた。本年度奨励金研究では、昨年度の研究活動を通して飯縄信仰史の民俗学的アプローチを中心にフィールドワークや文献史料収集が達成できたことから、実地調査等で収集した飯縄神社関連文書の読解と史料分析を主たる研究手法とし、飯縄信仰と飯縄修験組織について中世史、中世社会史の立場から論じてその歴史的展開について明らかにした。

研究の具体的な方法として、早稲田大学図書館を利用し文献調査や研究成果の報告に務めた。フィールドワークとしては、五月に長野県飯縄山とその周辺の山岳霊場で巡検を行うとともに、長野市公文書館等で信仰関連史料の調査を行った。夏季休業期間には東北地方の飯縄信仰を巡り、青森県恐山、岩手県遠野市、宮城県、山形県米沢市で調査を行った。また、九月には山梨県全域の飯縄神社の分布状況について調査し、文献史料の収集を行ったほか、十二月には長野県諏訪市に滞在し、南信地方の飯縄神社の分布調査を実施している。

研究成果：

本年度の研究成果として以下に記した論文、ポスター発表を公開した。また、この他にも第 74 回学院祭や 2024 年度学芸発表会の民俗学プロジェクトにおいて口頭発表を行った。

・論文：「甲信越の武家と北信濃の山岳信仰—飯縄大明神信仰の諸相と中世社会史における一考察—」（『令和六年度民俗学プロジェクト研究紀要』, 2024, p46-79）

・論文：「北信濃における山岳信仰の成立期と在地勢力—『戸隠山顯光寺流記』の年代記的再考を中心に—」（『2024 年度高等学院学術研究奨励金報告書』, 2024）

・論文：「黒姫山の山岳信仰における黒姫と機織りの女神伝説について」

・ポスター発表：「飯縄信仰と武家勢力—分裂・移住・再興の中世社会史的考察—」

以上の成果は 2024 年度高等学院学術研究奨励金の交付により達成された。この場を借りて深く御礼申し上げる。

研究者：

研究代表者 本間 義隆

研究分担者 近藤 瑛太

長谷川 栄咲

真中 寛仁

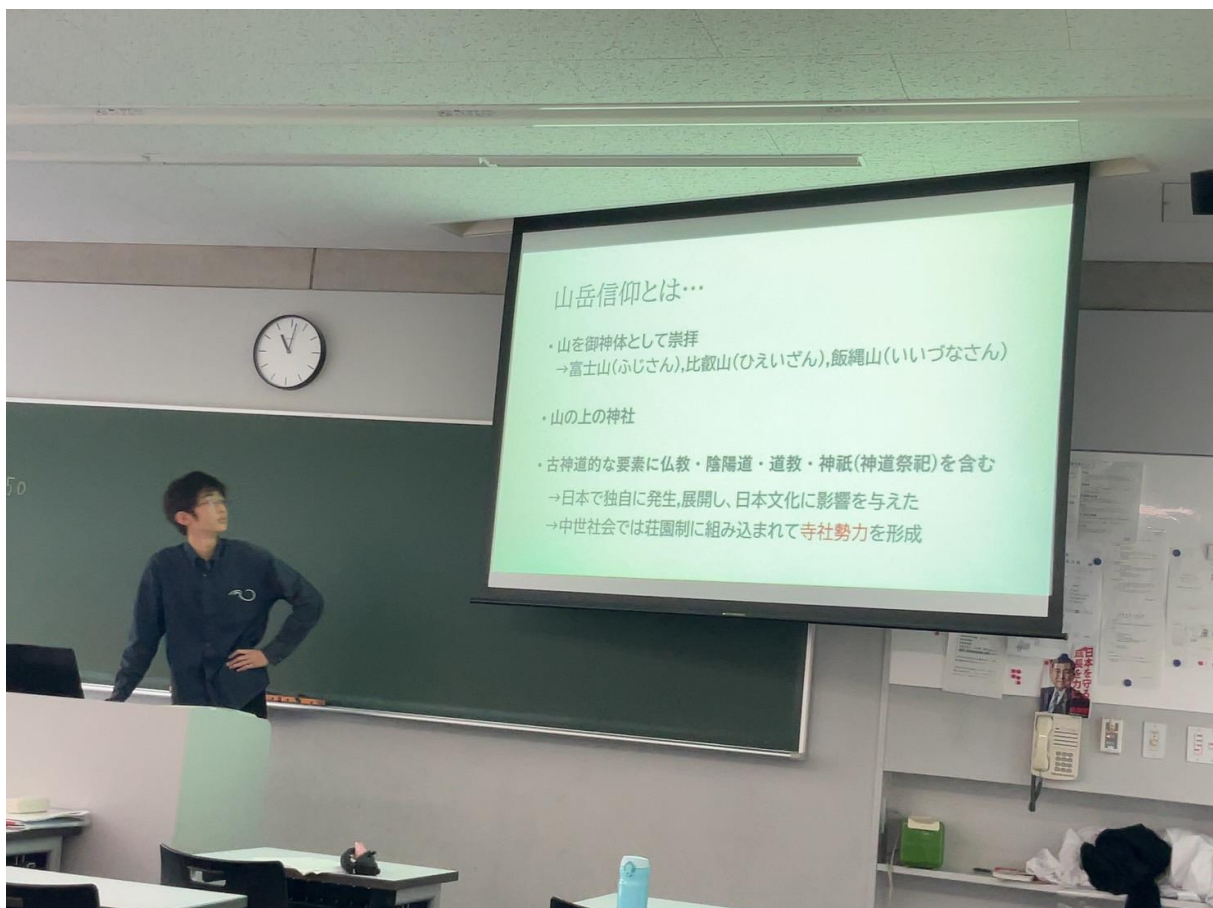
担当教諭 松澤 徹

(受給額： 26,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
研究成果写真：



写真：飯縄山山頂付近の信仰塔 (2024. 5. 6 筆者撮影)



写真：2024 年度学芸発表会 (2024. 11. 16 斎藤翔一郎先生撮影)